



JAPIC NEWS

April
2020
No.432

4

contents

■ 巻頭言

想像もつかないことが起きた時にどう対処するか

厚生労働省 医薬・生活衛生局長 樽見 英樹 2

■ インフォメーション

4月発行 2020年版「医薬品製造販売承認品目一覧」 4

4月末発売! JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2020年4月版」
薬系大学新1年生向けに日本の医薬品 構造式集 2020を無償提供! 5
令和2年度JAPICユーザ会開催について

■ トピックス

JAPICサービスの紹介 - 医薬品添付文書情報関連データ -

- ⑤ 禁忌データ 6
- ⑥ 相互作用データ 7
- ⑦ 用法・用量データ 7
- ⑧ 医薬品写真データ 8

図書館からお知らせ - アメリカ薬局方 - 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) 10

■ 図書館だより No.358 11

■ 情報提供一覧 11

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

想像もつかないことが起きた時にどう対処するか

厚生労働省
医薬・生活衛生局長

樽見 英樹 *Tarumi Hideki*



厚生労働省では「想像もつかないこと」が起こる？

以前、我が厚生労働省の記者クラブに所属するある記者さんの講演を聞いた際、厚生労働省の特徴の一つとして「想像もつかないことが起こる」と言われて、いささか驚いたことがある。しかしこれは案外当たっているかも知れない。国民生活に広い裾野を持つ厚生労働省の分野において、従来の思考法の枠を超える問題が比較的多く発生するというのは不思議でないし、また、厚生労働省の対象の少なからぬ部分は生活の質、あるいは国民の価値観に関わっており、数値的に足して二で割るというような対応のできない問題が多いというのも確かなことだからだ。

こうした事態に直面した時にどう対処すべきなのだろうか。それを考えておくことは、厚生労働省だけでなく、広く顧客を持つ事業に携わる者にとっても、意味のあることではないだろうか。こうしたことについては専門的な研究もあるだろうし、我が未熟さをさらすだけのことになるかも知れないが、対処するに当たって大切なことについて改めて考えてみたい。言うまでもないことながら、これから述べることは全く私個人の見解であり、組織としてのものではないことを初めにお断りしておく。

問題の及ぶ範囲を正しく認識すること

何かおかしなことが起きている、ということがわかったときには、似たようなことがどこかで起きていないかを調べ、その原因は何かを究明し、新たに同様のことが起こるのを防止するためにどのような対策が必要かを検討し、起きてしまったことに適切に措置するにはどうしたらよいかを考える、ということになる。

これは、言わば当然の道筋だし、巻き込まれた担当者はとっさにその道筋を念頭に置きながら具体的な対処法を考えていくことになる。だが頭が当然にかつとっさにそう働くからこそ、「原因を想定することが事態を把握する

眼をゆがめていないか」ということにも注意していなければいけない。

かつて年金記録問題が起こった時、過去の事務処理の限界から生じたものと過小評価し、その結果現存する加入者には影響が少ない、と社会保険庁が当初誤って考えたことがどれほど公的年金への不信感を増幅したことだろうか。原因の究明は必要だが、それは常に客観的な事態の把握のあとに来るべきものだ、ということをお忘れのようにしたい。それとともに、事態の把握に当たって希望的観測を交えない、ということも重要だ。そのようにして問題の及ぶ範囲、問題の大きさを正しく認識して初めて、対策を的確に検討することも、対策を実施するために十分な体制を作ることも、できるのだと思う。

情報は広く集め、判断は集中して行うこと

事態の把握、と言ってもそれには時間のかかることがある。また多くの場合、事態は刻々変化する。そうした中で正しく物事を認識するには、スタッフを使って広く情報を集めなければならない。が、一方、そうして集めた情報を評価し、本質的な問題点は何かを抽出し、対策を決定する（あるいは修正していく）ことについては、特定の責任者、あるいはグループに集中して行う必要がある。この組み合わせが上手く機能しないと、対策は迷走する。

それを防ぐためには、対応する組織内部の担当者それぞれについて、役割と責任範囲を常に明確にしておくことが大切だ。本人が分かっているというだけでは不十分で、組織内部で共通認識になっていなければならない。この状態を常に確認し維持するということは、プロジェクトリーダーにとって、あるいは判断の中身そのものよりも重要な仕事ではないだろうか。

実務の細部をよく詰めること

対策を考えるに当たって、「何かをやったと言えること」はしばしばそれ自体大切なことだ。しかしそれは最初のうちで、いずれ効果を求められることを忘れては無責任以外の何物でもない。

したがって、対策をつくるときには、具体的に誰がどう行動するのか、予算や物資が必要であればそのロジスティックをどうするのか、さらには効果をどう測定するのか、をきちんと詰めておかなければならない。特に衛生、福祉行政では通常業務の主体が地方自治体になっていることが多いが、だからと言って「想像もつかないこと」が起きた場合に対策は自治体にお任せという訳にはいかない以上、こうしたプロセスへの考慮が不十分になることがないように、気を付けておかなければいけない。

この点は、実は最初に述べた問題の把握という局面でも同じことが言えるように思う。実務の実態をきちんと踏まえていないと、何が問題なのか、その原因が何なのかについて思い違いをする可能性がある。そこは遠慮せず、よく当事者に聞いて対応するように心がけなければならないと思う。

リスク情報を国民（顧客）と共有すること

何か異常なことが起きている、ということは、我々の生活に何らかのリスクが生じているということである。それは同時に、対処が上手くいかないときに行政そのものへの信頼が失われるという意味で、行政主体のリスクでもある。

リスク情報は、できる限り早く公開しなければならない。情報公開は、それにより問題と対策を国民（顧客）に理解してもらい、対策が円滑にかつ効率的に進むようにするという点で重要であるとともに、むしろその根本にある行政への信頼感を確保するために絶対に必要なことだ、という認識を持つことが何よりも大切だと思う。したがって、記者会見などをする場合には案件に責任を持つ高いレベルの者が行うことが望ましく、状況認識と対策の全体像を語る必要がある。

行政において広報は危機管理のツールだ、というのも、国民からの信頼喪失というリスクに、広報の在り方が直結していることを指している。そうした観点から広報、あるいは情報公開を行う場合に大切なこと、についてついでながら申し上げると、それは情報の主導権を取ることではないかと私は思っている。主導権を取る、という言い方がやや勝手な印象を与えるとすれば、確実な情報をどこよりも早く把握し、報道される前に発表すること、と言っても良い。これはなかなか簡単にできることではなく、特に、確実な状況を把握するということとできる限り迅速に公表するということとはしばしばせめぎあう。しかし、憶測を排し、問題をことさらに大きくしないためにはこれがとても大切なことだ。企業の危機管理においても事情は同様ではないかと思っている。

それでも歴史に学ぶ意義は大きい

想像もつかないこと、とは言っても、似たようなことは過去をひもとけば案外にあるものだ。問題の性質が違って、少なくとも、新たな問題に直面した時にどのようなプロセスで関係者の合意を取り、その問題に対処したのかということは参考になるし、参考というだけでなく、それが目下の問題を処理する方法論の正当性の根拠にもなるだろう。振り返ってみれば失敗した対処であったという事例でも、その轍を踏まないようにするという意味ではとても有益な検討材料である。

「記録を残す」ということは、そういう意味で大変重要なことだと思う。日頃から過去に生じた問題の記録について目を通しておくことができれば、それにより、「想像もつかないこと」がそうでなくなることであるだろう。百点の対処などまずなく、先人の失敗を見て対処法の合格点の相場が何となくわかるというだけでも、ずいぶん気持ちが楽になるのではないだろうか。

基本は誠実さ

信なくば立たず、と言うが、異例のことが起きた時ほどそれに対処する者への信頼感が結果を左右することも無いのではないだろうか。想像もつかないことへの対処とは要するにコントロール外の事象をコントロール下に置こうとする企てであり、事実に対する誠実さ（謙虚であり、科学的であること）、国民（顧客）の疑問に対する誠実さ、結果に対する誠実さ（すなわち責任感）がなければ上手くいかない。同時に、そのことが伝わるような情報発信をしなければならない。これまで述べてきたことも、結局すべてそうしたことのヴァリエーションと言えるかも知れないと感じている。

昨年末に本稿の依頼をいただき、医薬・生活衛生局に来て以来リスク管理について考える機会が予想以上に多かったこと、私自身これまで危機管理に関わる部門に比較的長くいたことから、覚え書きのようなものを書いてみようと思いついて書き始めたものが上記である。新型コロナウイルスへの対応が課題となっている現在、あたかも天に唾するようなものではないか、言ったことができていないのではないと言われるかも知れないが、今後も職員とともに全力で事態に対処するよう努力を続けていくことをお誓いして、お許しを請いたい。

4月発行

2020年版「医薬品製造販売承認品目一覧」

JAPICでは、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造販売承認資料を入手し、JAPICデータベース「SHOUNIN (ショウニン)」(更新月1回)でご提供しており、更に1年分をまとめて「医薬品製造販売承認品目一覧」(1986年創刊)を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品(2019年1月から12月までの承認分)を収録した2020年版を発行いたしました。編集内容は、ご利用いただきやすいよう医療用、一般用(要指導医薬品を含む)別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。

ご購入をご希望の方は、FAXにて下記宛にお申し込み下さい。

- ◆価格:会 員 10,000円(+税)
- 非会員 20,000円(+税)

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461)

4月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2020年4月版」

◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。

(医療用は2020年4月、一般用は2020年3月までのJAPIC入手分を収録)

◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。

データ出力形式は、タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。

◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。

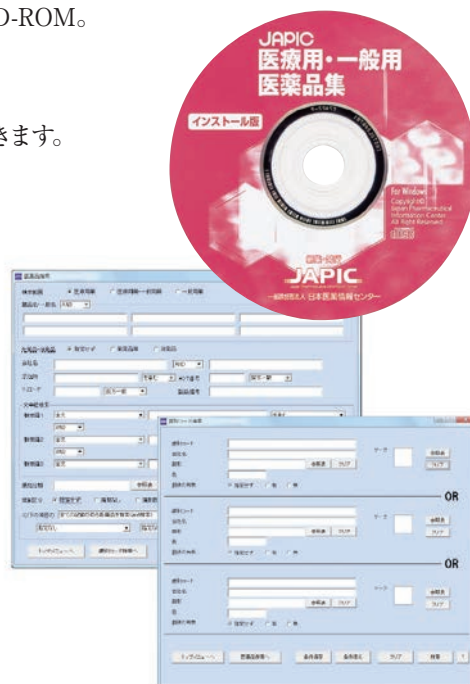
◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。

◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)

- ◆価格:単回 13,000円(+税)
- 年間セット4枚(4月・7月・10月・1月) 23,806円(+税)

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461)



薬系大学新1年生向けに 日本の医薬品 構造式集 2020を無償提供!

薬学教育支援の一助として、本年度も日本の医薬品 構造式集 2020を無償提供しました。薬系大学の新1年生向けに、各校ご利用の希望数を伺い、本年度は66校・合計13,000部を超える依頼をいただき、3月中旬に送付いたしました。

医薬品についての知識や技能の習得を補い、いづらかでも薬学と薬剤師教育の発展と高度化にお役に立ちたいとの思いから、薬系大学への「日本の医薬品 構造式集」の無償提供を毎年実施しております。提供先大学からは、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。

このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

日本の医薬品構造式集

- ・「JAPIC医療用医薬品集2020」収録成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,400成分の構造式を収録しております。
- ・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・分子量・分子式を記載しております。
- ・索引は五十音(和文)索引とアルファベット索引の2種類を収録しており、五十音索引では製品名による検索ができます。

◆価格:1,800円(+税)。B5判 約250ページ
〔販売:丸善出版株式会社〕



令和2年度JAPICユーザ会開催について

JAPICでは、ユーザの皆様にJAPICが提供する安全性情報サービスを知っていただくため、例年6月にユーザ会を開催しておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮して、開催の延期または中止を検討しております。

詳細が決まり次第、JAPIC NEWS及び財団ホームページでご案内いたしますのでご確認ください。

—医薬品添付文書情報関連データ—

5 禁忌データ

データ販売



毎月更新

■医療用医薬品添付文書の警告、禁忌、原則禁忌を内容により分類し、禁忌となる病名を抽出したデータ

医療用医薬品添付文書に記載されている警告、禁忌、原則禁忌の各項目の内容を記載内容ごとにレコード化し、禁忌病名を抽出して、標準病名及びレセプト電算コード、ICD10コードと関連付けたデータです。

本データをオーダリングシステムや電子カルテシステムに利用いただくことで、どのような状態及び疾患を持つ患者が投与禁忌となるのかを確認でき、また禁忌となる疾病を基礎疾患に持つ患者に警告を出すことも可能となります。

提供内容

主な項目：添付文書 ID、枝番号、警告レベル、本文、禁忌分類、禁忌病名、索引用語、標準病名、レセプト電算コード、ICD10

提供形式：カンマ区切りテキスト形式

特長

禁忌データは、次の2つのテーブルから成り立っています。

- 本文テーブル：添付文書に記載されている警告、禁忌、原則禁忌の各項目の内容を記載内容ごとにレコード化したテーブルです。
- 病名関連テーブル：本文テーブルに対応する標準病名及びレセプト電算コード、ICD10コードをレコード化したテーブルです。各テーブルは本文ごとに付番されている文章番号で関連付けることができ、更に添付文書 ID、枝番号を用いて医薬品名称データと関連付けることができます。（医薬品名称データも付属して提供します。）



6 相互作用データ

データ販売



毎月更新

■医療用医薬品添付文書の相互作用に記載されている相互作用薬剤名を抽出し、一般名と関連付けたデータ

医療用医薬品と、その医薬品の添付文書の相互作用に記載されている薬剤名を関連付けるためのデータです。医薬品を併用する際の相互作用や飲み合わせの確認等ができることから、オーダリングシステムや電子カルテシステムにご利用いただくことが可能です。

提供内容

主な項目：添付文書 ID、枝番号、YJコード上位9桁（YJ9桁）、相互作用薬剤名等

提供形式：カンマ区切りテキスト形式

特長

相互作用データは、次の2つのテーブルから成り立っています。

- 1 相互作用テーブル:**相互作用に記載された医薬品名を添付文書単位で抽出したデータです。相互作用のレベル（併用禁忌、併用注意等）、相互作用薬剤名等で構成されています。
- 2 一般名テーブル:**相互作用テーブルに抽出された相互作用薬剤の一般名を、投与経路や剤形まで区別できるYJ9桁まで展開したテーブルです。
- 3 2つのテーブルを組み合わせることにより、相互作用を起こす可能性がある医薬品一般名の対応を作成することができます。更に添付文書ID、枝番号を用いて医薬品名称データと関連付けることができます。（医薬品名称データも付属して提供します。）**

相互作用テーブル

添付文書ID	枝番号	YJ9桁	レベル	相互作用薬剤名
00001427	001	4211402D1	禁忌	ベントスタチン
00001427	001	4211402D1	注意	抗悪性腫瘍剤
00001427	001	4211402D1	注意	アロプリノール
...

一般名テーブル

レベル	相互作用薬剤一般名	相互作用薬剤YJ9桁
禁忌	ベントスタチン	4291404D1
注意	ミトタン	2499006M1
注意	レボホリナートカルシウム	3929407D1
注意	レボホリナートカルシウム	3929407D2
注意	メトレキサート	3999016F1
注意	メトレキサート	3999016M1
注意	シクロホスファミド水和物	4211002F1
注意
注意	アロプリノール	3943001C1
注意	アロプリノール	3943001F1
注意

7 用法・用量データ

データ販売



毎月更新

■医療用医薬品添付文書に記載の用法・用量より抽出したデータ

医療用医薬品添付文書の効能・効果と用法・用量に記載された内容を、投与方法(量・回数等)ごとに分けてデータ化したものです。約22,000品目の医療用医薬品を収録しています。

医薬品の適応から投与量(含量・剤形単位)等を確認できることから、オーダリングシステムや電子カルテシステムにご利用いただくことが可能です。

提供内容

主な項目: 添付文書ID、枝番号、効能・効果、年齢区分、1回量、1日量、投与回数、投与経路等

提供形式: カンマ区切りテキスト形式

特長

- 1 添付文書の記載内容を細かく項目分け:**1回量・1日量等の項目に加え、投与回数・分割回数等、添付文書の記載内容をデータ化しています。また、数値データだけでなく、成分名・投与経路・投与間隔・投与期間等の用法データも、可能な限り抽出しています。
- 2 年齢区分:**成人だけでなく、小児や高齢者等に関する記載がある場合は、それぞれの用法・用量データを作成しています。
- 3 最大値データの充実:**1回最大量・1日最大量だけでなく、投与回数・投与期間についても、最大値の記載がある場合はデータ化をしています。

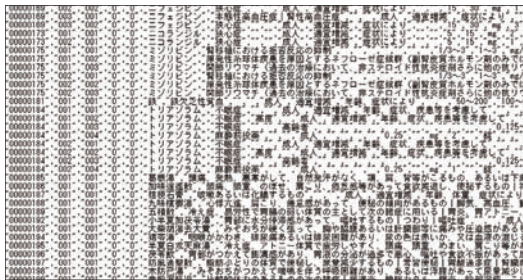
— 医薬品添付文書情報関連データ —

7 用法用量データ

特長

- 4 投与量を2つの単位で：
原則として、含量単位及び剤形単位の両データを作成しています。例えば、ある製品の添付文書の1回量に「○ mg」しか記載されていない場合でも、その製品の含量から換算した「△錠」というデータも持たせています。
- 5 初期量・追加量の情報：
通常投与のほかに、初期投与や追加投与の記載がある場合は、その内容も可能な限りデータ化しています。
- 6 本データは、添付文書ID、枝番号を用いて医薬品名称データと関連付けることができます。
(医薬品名称データも付属して提供します。)

用法用量テキストデータ



8 医薬品写真データ

データ販売

毎月更新
剤形写真
注射薬

1・4・7・10月更新
患者服薬
指導説明書

■株式会社薬事日報社との提携による提供データ

- 医療用医薬品写真データを株式会社薬事日報社との提携により提供しています。
- 「画質」は高い評価を得ております。ファイル名は個別医薬品コードを採用しており、多くのシステムで簡便に利用可能な様式となっております。

提供内容

提供データ：●剤形写真データ（1錠タイプ・2錠タイプ）

- 注射薬データ
- 患者服薬指導説明文データ

提供形式：JPEG形式

●剤形写真データ：包装タイプの写真と剤形（裸錠）タイプの2タイプがあります。

2錠画像		1錠画像	

●注射薬データ：写真は直接の容器のみで個箱等の写真はありません。

注射薬画像		

ーアメリカ薬局方ー

The United States Pharmacopeia(USP) and The National Formulary (NF) 冊子体終了のお知らせ

本書はUSP43-NF38, 2020をもって冊子体及びUSB版の発行を終了し、2020追補 (The First Supplement) よりオンライン版 (年間購読) のみとなります。ユーザ数に応じて価格区分が設定されているようです。

詳細は出版社サイト (<https://www.uspnf.com/>) にてご確認ください。

本書は1820年創刊のアメリカ薬局方 (USP) ・国民医薬品集 (NF) です。1980年以降USPとNFの合本となっています。本編と追補 (Supplement) から構成されており、本編は年刊、追補は年2回の刊行でした。

JAPICではNF (1936年) をはじめ、合本後はUSP20-NF15 (1980年) からUSP42-NF37 (2019年) までを所蔵しています。

書籍名 (JAPIC所蔵最新版)	2019 USP 42 The United States Pharmacopeia -NF 37 The National Formulary
出版社	The Stationery Office
著編者	The United States Pharmacopeial Convention
出版国	米国
ISBN	978-1-936424-85-6
サイズ等	A4判、6分冊+Supple.2冊



外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2020年2月1日～2月29日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 738-741) の記事から抜粋

■米FDA

- Clozaril, Fazacllo ODT, Versacloz (clozapine) : Drug Safety Communication－米FDA, 未治療の便秘が重篤な腸管障害につながるおそれがあるという警告を強化
<<https://www.fda.gov/safety/medical-product-safety-information/clozaril-fazacllo-odt-versacloz-clozapine-drug-safety-communication-fda-strengthens-warning-untreated>>
- 米FDA, 注射用bacitracinの市場からの撤退を要求
<<https://www.fda.gov/drugs/drug-safety-and-availability/fda-requests-withdrawal-bacitracin-injection-market>>
- 業界向けガイダンス (案) : 医薬品および生物学的製剤の潜在的な免疫毒性に関する非臨床安全性評価
<<https://www.fda.gov/media/135312/download>>

■カナダHealth Canada

- Summary Safety Review : 直接作用型抗ウイルス薬-血糖値異常の潜在的リスクの評価
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00234>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication : estradiolクリームへの全身曝露に伴うリスク
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/dhpc/risks-associated-systemic-exposure-estradiol-creams_.pdf>

■英MHRA

- mecasermin (Increlex▼) : 良性および悪性腫瘍のリスク
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/mecasermin-increlex-risk-of-benign-and-malignant-neoplasia>>
- ondansetron : 妊娠12週の使用後の口唇口蓋裂リスクのわずかな増加
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/ondansetron-small-increased-risk-of-oral-clefts-following-use-in-the-first-12-weeks-of-pregnancy>>
- Lemtrada▼ (alemtuzumab) : 重篤な心血管反応および免疫介在性反応に関するレビュー後の制限の更新およびモニタリング要件の強化
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/lemtrada-alemtuzumab-updated-restrictions-and-strengthened-monitoring-requirements-following-review-of-serious-cardiovascular-and-immune-mediated-reactions>>

■独BfArM

- Picato (ingenol mebutate) : 以前の販売承認取得者の要求に応じた、販売承認の取り消し
<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/m-r/picato.html>
- Nexplanon (etonogestrel) 避妊用インプラント : 神経血管損傷およびインプラントの移動に関する稀なリスクを低減するための新たな挿入部位
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/nexplanon-etonogestrel-contraceptive-implants-new-insertion-site-to-reduce-rare-risk-of-neurovascular-injury-and-implant-migration>>

■医薬品医療機器総合機構

- 医薬品に関する評価中のリスク等の情報について : ペグフィルグラスチム (遺伝子組換え) など
<<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/calling-attention/risk-communications/0001.html>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介 : <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
British National Formulary for children 2019-2020	Royal Pharmaceutical Society	Pharmaceutical Press (GBR)	2019年9月
Pocket Drugs 2020	福井次矢監修,小松康宏・渡邊 裕司編集	株式会社医学書院	2020年1月
今日の治療指針 2020年版 (Volume 62): 私はこう治療している	福井次矢,高木誠,小室一成 総編集	株式会社医学書院	2020年1月
今日の治療薬 2020 解説と便覧	浦部晶夫,島田和幸,川合眞一 編	株式会社南山堂	2020年1月
改訂四版 実用漢方処方集	藤平 健,山田 光胤監修, 日本漢方協会編集	株式会社じほう	2019年11月
治療薬マニュアル 2020	高久史麿,矢崎義雄 監修 北原光夫,上野文昭,越前宏俊編	株式会社医学書院	2020年1月
ポケット医薬品集 2020年版	龍原徹監修 澤田康文,佐藤宏樹著	株式会社南山堂	2020年1月

情報提供一覧

2020年3月1日～3月31日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	https://database.japic.or.jp/
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2020年2月分 (HP定期更新情報掲載)	3月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2020」	3月15日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「日本の医薬品 構造型集 2020」	3月15日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「JAPIC NEWS」 No.432 2020年4月号	3月31日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」 No.1223-1226	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する 措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.4566-4586	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉	https://database.japic.or.jp/
6. 「JAPIC Weekly News」 No.742-745	毎 週	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.839-843	毎 週	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>

医療用医薬品集

普及新版2020

2020年
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,300頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。約2,300成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2020年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎特定背景関連注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

価格：**4,800**円(+税)
A5判／約2,000頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

はなあねもね

別名:アネモネ・ブランダ。学名:Anemone blanda Schott & Kotschy. 英名:Grecian windflower. きんぼうげ科いちりんそう属。多年生草本。地中海沿岸地域等原産。明治時代初めに渡来。開けた森の岩の多い場所などに自生。3~4月に青や白の花を付ける。初夏に地上部が枯れ秋に芽を出し春に開花。トリテルペンサポニンRaddeanin A(腫瘍細胞成長阻害活性)含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン
Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。